

弘経寺だより

発行所

寿龜山弘経寺

〒303-0041

常総市豊岡町甲1

Tel.0297-24-0895

毒矢のたとえ

お釈迦様にまつわるいろいろなお話の中に「毒矢のたとえ」というお話があります。

今からおよそ二五〇〇年前、お釈迦さまが仏教を開かれた当時、バラモン教という宗教がインドでは流行していました。そのバラモン教のえらいお坊さんたちの間では、「人が死んだあともその魂は存在するのか」とか「死後の世界はどうなっているのか」ということがしきりに議論されていました。巷ちまたの人たちもこの議論に大変関心を寄せていましたが、お釈迦様は一向にその議論に加わりとうとしませませんでした。

お釈迦様のお弟子さんたちは業を煮やしてお釈迦様に言いました、

「釈尊しやくそん、霊魂や死後がどうなっ

ているかということがお坊さんや学者さんの間でしきりに議論されていますのに、なぜあなたはそれに加わりとうとしないのですか」。

お釈迦様は穏やかな口調で答えました、

「弟子たちよ、よく聞きなさい。ここに毒矢で体を射られて死にそうな人がいるとします。彼を助けようとした人が緊急の処置をしようとしたら、この男はこう言いました『ちょっと待ってくれ。この矢を射た人はだれなのか、この矢は木でできているのか鉄でできているのか、毒の成分は何なのか、これらのことが分かるまで矢を抜いて治療をしないでくれ』と。

『人が死んだあともその魂は存在するのか』とか『死後の世界はどうなっているのか』という議論をしてばかりいる人は、このように『矢を射た犯人や矢の材質や毒の成分が分かるまで治療をするな』と言っている毒矢に射られた人と同じです。本当に為すべ

きことを為さないで、そんなことに時間を費やしている間に命は終わってしまうのです」。

お釈迦様の答えを聞き終えた弟子たちは、深くうなずいて、すぐさま自分たちの修行に勤いそんだということでした。

私はこの話を時々思い返し、自分を省みます。今の私はもしかしたら、毒矢に射られているにもかかわらず、それに気づかず治療もせずに瀕死の状態で生きているのではないかと……。そう考えると空恐ろしくなります。

命とはこの世に生を受けて死ぬまでに許された時間のことです。つまり、時間とは命です。「時は金なり」と言いますが、それは違うと思います。なぜなら、お金は増やすことができますが、時間は浪費することはできません、増やすことはできないからです。同じ一時間でも、だらだら過ごすのではなく、その一時間を心を込めて過ごすことによって時間の浪費、命の浪費をくい止めることはできます。

時は今 ところ足もと そのことに打ち込む命 永遠とわの御命みいのち

命(＝時間)の大切さを考えるとき、私は椎尾辯匡上人のこのおうたを詠み返します。

秋彼岸の今、弘経寺境内には真っ赤な彼岸花が咲き並んでいます。彼岸とは彼の岸、つまり極楽浄土のことです。彼岸があればこそ、此岸しがん(現世)があります。真っ赤な彼岸花を眺めながら、彼の岸に思いを寄せるとき、此の岸、つまり現世にて今生きているこの時間が大切でかけがえのないものであると気づかされます。

山門と鐘楼について

弘経寺本堂改修工事は、昨年九月四日の着工以来ちようど一年が経ちました。作業工程も予定通り順調に進んでおり、最終段階に入りました。これもひとえに本堂改修のために御喜捨をいただいております皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

弘経寺には現在改修中の本堂を中心として、鐘楼をはじめとした諸堂宇がいくつも存在します。本堂と並んで特にその老朽化が懸念されていますのが山門と鐘楼です。弘経寺にご参拝

2007年9月
月くださっている方はすでにお気づき
だと思いますが、山門鐘楼共に屋根瓦
が崩落寸前で、また、地震時には建物
全体が倒壊する恐れもあります。現在

は参拝者の安全を鑑みて、両方とも立
ち入り禁止の柵を設けています。

本堂は十一月には竣工し、来春には
落慶式（お披露目の儀式）が催される
予定です。本堂は立派に完成しまし
たが、山門は危ないので通れません、
というのでは笑い話になってしまい
ます。山門を通れないということは弘
経寺への参拝を拒否しているように
も思われてしまいかねません。同様に
鐘楼の周りに立ち入り禁止の柵を本
堂落慶後も立てたままにしておくこ
ともまた、弘経寺再興の機運を妨げ
ることになってしまいます。

先日増上寺の総務会にてこの山
門・鐘楼の問題について審議がなされ
ました。山門・鐘楼を再建するには新
たに何千万という工費がかかりま
す。現在、お檀家の方々を中心に本
堂改修のための御寄進を募っており
ます。最中ですので、これ以上のご
負担を

第19号
弘経寺有縁の方々におかけするわけ
にも参りません。したがって、山門は
解体除却、鐘楼は一時的に解体して解

体した部材を保管小屋にて保管し、再
建の目処が立ったら復元建築するこ
とが決議されました。

山門・鐘楼の今後の処置について、
やむを得ない事情でこのような決議
に至ったことを何卒ご理解いただき
たくお願い申し上げます。現状では
鐘楼再建プロジェクトに傾注してま
いりたいと思っております。今後とも
ご協力の程、お願い申し上げます。

本堂改修工事ニュース

本堂屋根の銅板葺きは役物の取り
付けを残し、ほぼ完成しました。外壁
は下地ができましたので、これからモ
ルタル、漆喰による仕上げの段階に入
ります。

本堂内部は、①内陣、②下陣、③廊
下、④便所、⑤裏堂、⑥設備の工事が
既に行われています。①は上部の組物
の補修作業、②④は天井貼り・壁下
地・床板取付の作業、⑤は建具工事、
⑥は電気の配線工事がほぼ同時に進
行しています。

十一月の竣工に向けて順調に工事
は進められています。引き続きご支援
のほどよろしくお願い申し上げます。

弘経寺陶芸教室

弘経寺にて陶芸教室を開催してい
ます。教室は弘経寺書院裏の「弘経寺
陶房」です。実施要綱は左記のとおり
です。

- 受講者数：五人〜十五人
- 受講（制作）日時：午前十時から
午後五時までの二時間（曜日不問）
- 制作する作品：マグカップ
- 受講料（制作費）：作品一つにつ
き二、〇〇〇円（受講料、材料費、
焼成代込み）
- 受講日（制作日）：電話かメール
にて受付（応相談）
- 講師：弘経寺 金田主管

受講ご希望の方は電話かメールに
て受付します。その際に受講人数と受
講希望日時をお伝えください。その他、
ご質問等ございましたら、お気軽に
ご連絡ください。

弘経寺陶房連絡先

- TEL 0297-24-0895
- E-mail gogyoji@star.ocn.ne.jp

清掃当番

九月十六日に羽生地区の皆様

境内をきれいに清掃していただき
ました。ありがとうございます。

今回の境内清掃日は十一月十一
日（日）です。当番は溜井・ニツ谷・水
海道地区です。当日は午前八時集合
で雨天の場合は室内の清掃を願
いたく存じます。当番地区の皆様、
よろしくお願い申し上げます。